

01 WG ワーキンググループ情報
 ●各ワーキンググループの活動状況&予定
 (WG=ワーキンググループ)

●太陽光 WG
 独立系太陽光発電システムの普及・事業プラン、またそれに関するワークショップやイベント、勉強会を各種開催。ブログもご覧ください。エネットまつもとオフィシャルHPにバナーがあります。

●MOKUBAの会 (木質バイオマス WG)
 「恵まれた森林資源を有効に活用して、循環型の社会を築いていきたい」という思いから集まったメンバーは、それぞれ地域に根ざした特色のある活動や考えを持った方々です。月1回くらいのペースで勉強会を実施中。電気に頼らないから、災害時にも活躍しそうな「発電屋台」を作りました。(写真上は構想図、下は骨組み完成時)



●賦存量 WG
 松本地方事務所より提供されたデータと計算ツールを使って、松本地域(3市5村)の賦存量と推定利用可能量についての算定を行いました。

●学習会 WG
 月1回のペースで開催している「学習会」を中心に、もっと多くのみなさんと意見交換等ができる場づくりに取り組んでいます。みなさんにお知らせしたいことや知識お持ちの方、ぜひ勉強会で発表してください。

●地中熱 WG【地恵の水】
 松本市寿小赤での地下水利用実証事業の現地視察会を実施。地下水を汲みあげてまた地中に戻す様子を確認し、地下水の熱利用が有効であると実感しました。



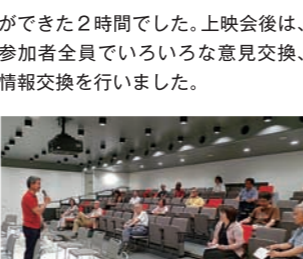
●広報チーム
 ホームページの更新、イベントでの広報活動、actionの制作を今後ものがんばります。
新しい情報はホームページやフェイスブックの最新情報に掲載予定。
あなたも新しいWGを作りませんか。
 ワーキンググループは、手を挙げて、声を上げればいつでもつくれます。仲間を集めて action を起こしませんか。自分の想いをみんなに伝えるきっかけづくりになると思います。

02 Event 2013 年前半 イベントダイジェスト

●2013 年度通常総会を開催
 日時：2013年5月12日(日) 13:30～16:30
 場所：松本市南部公民館大会議室
 会場に集まった約30名弱の会員と、委任状を合わせた人数は定数に達し総会は成立。前半は議案の審議。事業報告、決算報告、事業計画・予算・体制など全てが承認・可決されました。後半は各ワーキンググループからの活動発表・質疑応答のあと、「MOKUBAの会」が、電力供給に頼ることなくエネルギーを生み出すことができる様々な商品を紹介。



●七夕上映会
パワー・トゥ・ザ・ピープル～グローバルからローカルへ～
 100%クリーンエネルギー化の実現やグループ保険の設立など、自立型・分散型の社会をつくらんと奮闘するリーダーと市民たちを追ったドキュメンタリーです。
 日時：2013年7月7日(日) 19:00～20:45
 場所：塩尻市 えんば一く(市民交流センター)3階 多目的ホール
 入場：300円(大学生以下無料)
 七夕の夜に自然エネルギーと自立型のローカル社会について考えること



***エネットまつもと「市民フォーラム」アフターネットワークイベント**
●「非電化野菜乾燥機を1日で作ろう！」
 日時：2013年6月16日(日) 10:00～14:00
 場所：松本市庄内地区公民館
 参加料：2,000円(1家族につき)
 定員：20名
 講師：赤羽英弘(非電化工房松本支部)
 主催：あくろ 協力：庄内地区公民館
 ダンボールで、太陽光を使う「野菜乾燥機を作ろう」というWGは、子どもから大人まで満員の盛況ぶり。乾燥機の仕組みと構造の説明の後、工作スタート。大人たちが夢中



自然エネルギーネットまつもと通信

聖高原の山中にひとり暮らしする寿永さんの経歴はとても興味深いものです。「小学生のときは家を作る大工さん、高校時代は建築家に憧れましたが、理由あって挫折。けれど夢は捨てきれず、大学では家を作る材料やエネルギーを学ぶため理学部へ。大学院でさらに研究を重ねました。」
 大学院修了後、大手ガラスメーカーに開発技術者として就職し、土日もなく仕事に追われる日々を7年間。転職が訪れたのはその頃です。「人気テレビ番組のプロジェクトXのようなものづくりに憧れ、反面、自給自足の生活にも興味が出ていたとき、藤村靖之さん著『楽しい非電化エコライフ&スローライフのために』という本に出会ったんです。これなら『ものづくり+エコライフ』の両立ができそうだと本に載っていた非電化冷蔵庫を見に行くモンゴルツアーに応募。28歳のときでした。ツアー



後は、地元で仲間と畑づくりにチャレンジしたりして、会社を辞めて、藤村さんが那須に開始した「非電化パーク」で1年間修業。そのまま、那須の山の中に住み始めました。が、3.11で移住を決意。この聖高原にやってきました。廃屋同然の別荘を手に入れて2年。今も自力でリフォームを進める寿永さんは、穏やかな雰囲気からは想像もつかないほどのパワーの持ち主です。断熱材のない床・壁を作り直し、「何とか越した」最初の冬の物語はまさに、伝説のテレビドラマ「北の国から」さながら…。「生計は村の事業関連でのアルバイトや、農家のお手伝いで維持しています。生活圏を狭めることで、お金をたくさん稼がなくても生活できる暮らしを目指しています。お風呂、暖房、料理のためのエネルギーを山の薪でまかなうため、伊那の『森林塾』に通い、枝で調理できるように、手作りウッドガス系のストーブの研究にも熱中しています。」
 「家を作りたい！」から始まった寿永さんの夢は、「暮らし方を創造し、家をリフォームし、まわりにあるものでエネルギーを作るクリエイティブな生き方」にたどり着き、実現しつつあるのです。

お金に依存しない
 あるものを活かすくらし。
 きつと、これからの
 幸せのキーワードだと思う。

寿永岳さん
 Takeshi Sunaga
 1978年、大阪生まれ、東京のベッドタウン茨城県利根町育ち。電気化学を専攻、東京工業大学大学院修了。現在、自給自足の山ぐらしを模索し、麻績村の別荘地(標高1,100mを超える山中)に在住(自然エネルギーネットまつもと会員)
 Blog: ソライロオテガミで検索



action people #1

寿永さんのような暮らしにあこがれる人はたくさんいますが、チャレンジし続けている人はめったにいません。action 人は素敵ですね。

私たちといっしょに「考え」「学び」そして「行動」しませんか。2013 年度会員募集中です。

2013年9月現在、会員数は70人。個人登録制です。会員のみなさんは、自然エネルギー関連の事業をされている方もいらっしゃいますが、多くの方は一般の市民の方々です。松本地域をはじめ、伊那、長野、諏訪からも参加されています。

入会の方法 ●年会費 2,000 円 (入会金はありません)

ホームページの入会申込書 (Word) を入手ください。 → 必要事項を入力 (記入) 後 ①電子メールで送付、または ②プリントアウトして FAX にて送付、あわせて指定口座に会費を入金してください。 → 入会後は、メールで情報をお届けします。各種会議・イベント・学習会へ自由に参加いただけます。



地域にあるものを活かすくらし

未来の子どもたちから「借りている地球や地域」を、良いかたちで返すため、自然豊かなこの地らしいエネルギーの地産地消をめざしてー。

WGのトピックスレポート

太陽光発電事業と耕作放棄地の有効利用についての学習会



地元の参加者さん所有の土地を見学（耕作放棄地）

太陽光WGによる「太陽光発電事業勉強会」が地元の要望にて四賀地区で開催されました。

講師：山本遼人さん（エネットまつもと・太陽光WG）
山川伊一郎さん（太陽光農家発電所研究会）

8月11日（日）、四賀地区の藤森さん（エネットまつもと運営委員）事務所にて、「四賀地区における太陽光発電事業勉強会」が開催されました。農業後継者もなく、耕作放棄地も増えつつある、そうした土地の有効利用として小さな太陽光発電所経営が考えられないかという地元の方の要望で実現した勉強会です。

最初に講師から「太陽光発電事業の基礎と太陽光農家発電所研究会の取り組み」について説明を受けたあと、地元の藤森さんから「農業を続けるにも高齢化が進み、後継者も無く、鳥獣害も増加の一途で、耕作放棄せざるを得ない農地がたくさんあり、同様に今はもう使うあてもない牛舎、鶏舎、倉庫なども、解体費を

考えると手が付けられない」といった現状を聞きながら、太陽光発電所が土地の有効利用となる可能性について模索しました。勉強会の後、所有者の方と一しよに、実際の現場を見学。後日、太陽光発電所造りのプランを太陽光農家発電所研究会から提案してもらうことで第1回目の勉強会は終了しました。

土地の転用や資金確保など難しい問題はいくつもありますが、耕作放棄地、空き家・空き倉庫などの問題解決と太陽光発電がうまく寄り添えれば何か新しい打開策が生まれるような気がした勉強会でした。



太陽光事業の基礎を説明中の山本さん



太陽光農家発電所の説明をする山川さん（右）と質問をする藤森さん（左）



地元の参加者さん所有の土地を見学（田んぼ）

会員以外の方も自由参加の学習会を月1回開催しています。お気軽にご参加ください。

例えば、2013年度前半はこんな内容の学習会を開催しました。

会場は「松本市民活動サポートセンター会議室」
開催時間は通常19:00~20:30です。

第1回

4月3日（水）
塩尻のバイオマス発電所（信州F・Powerプロジェクト）
予定地近隣の住民の方や林業関係者を含め20名近い参加者。長野県林務部の担当さんからプロジェクトの概要説明を受けた後、多数の意見や質問が交わされました。

第2回

5月17日（金）
1. 長野県環境エネルギー戦略概要
2. 県政タウンミーティングの報告（5/10開催）
3. 「信州F・Powerプロジェクト」の報告書紹介
長野県政がらみの新しい情報を学習することができました。

第3回

6月24日（月）
1. 塩尻市のバイオマス発電所：公害防止協定について
2. 持続可能な社会を考える「成長の限界・人類の選択」
「信州F・Powerプロジェクト」の関連学習として、公害防止協定とは何か。協定で大切なポイントは何か。などを学びました。
2部のテーマ「持続可能な社会を考える」の第1弾。「成長の限界・人類の選択」の本をテーマに人口、産業、食料等地球規模での持続可能な社会について学びました。

第4回

7月29日（月）
テーマ：持続可能な社会を考える
1. 「エコロジカルフットプリント」
2. 「世界一のエコタウン“江戸”から学ぶ」
テーマは第3回学習会から引き続き「持続可能な社会を考える」。1部は地球や地域の持続可能性を視覚的に表してくれる「エコロジカルフットプリント」という考え方を学んでいた「江戸」の廃棄物が出ない暮らしや文化、教育制度、そして都市機能のすばらしさを考えました。

第5回

8月30日（月）
テーマ：
1. 「環境問題からみたヨーロッパの現状と課題：ドイツ・フランスの視察報告」
2. 「既存砂防ダムへのスリット化改修・その意味すること」
1部はドイツとフランスの「ヨーロッパの次世代交通政策視察」へ参加した宮澤信さん（学習会WG代表）からの報告と考察。松本市同等の20万都市の次世代交通への取り組みはとて興味深いものでした。2部は川環境の専門家の田口康夫さんの砂防ダムの話。砂防ダムの現状と課題、そして課題対策として有効なスリット化改修について実例をもとに学習しました。

★次回日程はホームページの最新情報でご確認ください。

<http://www.enet-matsumoto.net> 自然エネルギーネットまつもと 検索



目からウロコ！知ってますか。原発のなぜ？なに？ vol.1

使用済み核燃料の放射線が安全になるまで10万年の時間が必要です。



10万年を5cmの長さの年表とすると、紀元後の2,000年はたった1mmです。

明治維新は145年前、2,000年前は弥生時代、気が遠くなるような10万年という間、安全に保管できるのでしょうか？

コンセントの向こう側に何が安全なのか。私たちが使う電気のほとんどは発電所で作ります。電気のスイッチを入れる時、そのスイッチは発電所とつながっています。

電気は暮らしに欠かせません。だからこそ、どんな作り方をしているのか知り、よい方法で作りたいものです。原発は今まで知らずにいたことが多い発電方式、まずは中身を知ることが大切ですね。

原発は、「トイレなきマンション」と形容されます。なぜでしょう？原発を動かすことできる使用済核燃料は、近づくと死んでしまうくらい強い放射線を出す核のゴミです。安全な状態になるには数万~数十万年かかります。今から十数年前はネアンデルタール人の時代！そんな超

長期、どうやって管理するのか、どこに保管するのか、何も決まっておらず決まる見通しありません。

今は各原発のプールや、青森県六ヶ所村の中間貯蔵施設に仮置きしていますが、これも数年のうちには満杯になります。貯蔵には常時冷却が必要ですし、原発を動かせばさらにゴミが増えます。

とてもよいマンションだと思って購入したらトイレがありません。どうするのと聞いたら、紙おむつを渡され、使ったら物置にでも保管しておくから。これが現状です。

コンセントの向こう側を考えてみませんか？

（文：平島安人）



信州大学インターンシップ制度により学生「溝口 依理子」さんをインターンとして受け入れました。

大学の授業の一環として、「インターンシップ ボランティア」というものがあり、私は自然エネルギーネットまつもとの活動に参加させていただいています。

「節電」という言葉も一般的になり、環境問題やエネルギーの問題に対する危機感も感じられるようになりましたが、私は現状のままの対策でいいのか、もっとできることがあるのではないかと疑問に感じていました。

「節電」という言葉も一般的になり、環境問題やエネルギーの問題に対する危機感も感じられるようになりましたが、私は現状のままの対策でいいのか、もっとできることがあるのではないかと疑問に感じていました。

具体的な活動として、ミーティングや学習会で話し合われた内容や考えたことなどを毎回まとめているのですが、日本が抱えている原発等の

問題に以前よりもさらに関心を持つようになりました。

またエネットまつもとのみなさんは、計画したことや思いついたアイデアを話し合っていて終わらせるのではなく、しっかりと具体的な行動に移しているということを感じました。市民活動フェスタ 2013in 松本「ぼくらの学校」への出展のお手伝いもさせていただく予定です。

「今まで通りの豊かな生活を送ること」と「環境に配慮したエネルギー」は、どうすれば両立していけるかということ、エネットまつもとの活動を通して考えていきたいと思っています。

（文：溝口依理子）



会員さんからちょっと一言！

#2 松岡 美さん（運営委員）

【NPO 法人信州アルプスの風「新エネ・省エネ事業部」】

忘れもしない東日本大震災が発生した2011年3月11日の午前、奇しくも全量買取法案（電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法案）が閣議決定され、国会に上程されました。法案の微修正、買取価格や期間などの審議が重ねられ、固定価格買取制度としてスタートしたのが昨年の7月1日のことです。

1年が経過して、この政策が自然エネルギーの定着に向け大きく後押しするものと期待していましたが、今のところ普及が進んでいるのは太陽光発電のみと言えるでしょうか。

その普及に伴い、「太陽光パネル販売 苦情増」という記事が某紙で取り上げられていました。家庭向け太陽光発電の販売で、国民生活センターに寄せられるトラブルが急増しているという内容でしたが、期待寿命が20年以上、メンテナンスフリーといわれる太陽光発電では、設置後に「説明どおり発電しない」とか「発電が低下しているのでは？」など故障や不具合、工事不良のトラブルが実際には起きていて、今後も増えることを心配しています。

では、設置者はどうしたらいいのでしょうか。太陽光発電のことを本当に理解している設置者は少なく、正常に発電しているか判断が難しいのが実情かと思いますが、発電量を記録することをお勧めします。毎日は大変ですが、1カ月ごとの発電量

を是非記録してください。貴重な実発電量データとして役に立ちます。

昨年、ご縁があり（一財）日本気象協会様の「近隣の気象観測値を利用したPV診断システム（PVD OG）の開発と適用」という研究に関わらせていただきました。

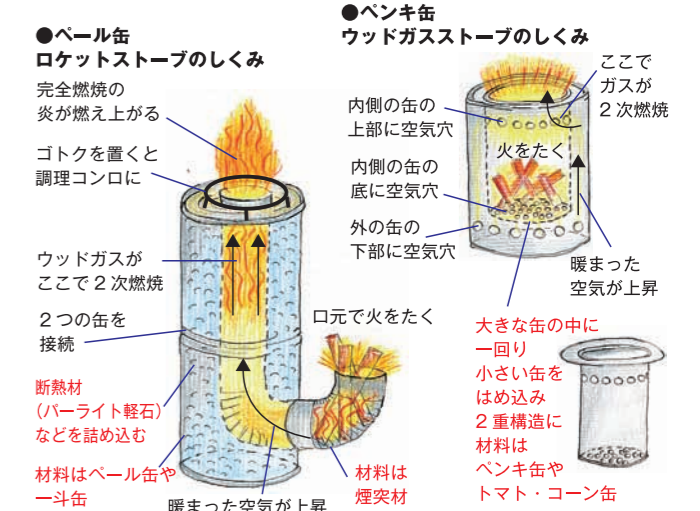
私たちは、長野県元気づくり支援金事業で、実発電量データを提供してくださる診断モニターを募集し、無償でデータに基づく診断を実施し、その結果を提供者に報告すると共に診断システムを検証し、アンケートにより意見を収集するものでした。

実際の気象データを基に試算した期待される発電量と比較し、実発電量が明らかに少なく不具合が疑われる設置者があり、その後の設置業者による精密点検や機器の交換という改善に繋がった事例もありました。

この研究論文は、（一社）日本太陽エネルギー学会の学会誌に掲載されました。詳細については、エネットまつもとの学習会等の機会に皆さまにご紹介できればと思っています。



作ってみよう！屋外で活躍する 燃焼効率のいい自作コンロ！



★「ベール缶ロケットストーブ」の作り方はエネットまつもとのホームページ「9/15 最新情報」でご覧いただけます。